

PPS007-10

会場: 301A

時間: 5月26日16:15-16:30

木星型惑星の科学

Science of Jovian planets

中島 健介^{1*}, 高橋 幸弘², 中本 泰史³

Kensuke Nakajima^{1*}, Yukihiro Takahashi², Taishi Nakamoto³

¹九大・理・地球惑星科学, ²北大・宇宙理学, ³東京工業大学地球惑星科学

¹Kyushu University, ²Hokkaido University, ³Tokyo Institute of Technology

木星型惑星の探査は地球・太陽から遠方にあるために長い期間と慎重な計画が必要である。それでも、この5年間はカッシーニ・ホイヘンスにより土星系の探査が非常に進展し、また2010年代後半から2020年代にかけてはJUNO, EJSM(JMO/JEO/JGO)の実施により木星系も新たな探査のサイクルを迎えることになる。さらに、太陽系外に多数の巨大惑星が発見されたことは、我々の太陽系の外惑星たちを、より一般的な視野で見つめなおすことを可能にしている。

本発表では、この様な背景条件を念頭に置き、木星型惑星とくにその大気圏・磁気圏・氷衛星に関わる近い将来の重要な科学的課題について整理し、探査を含む今後の研究の方向を議論する。

キーワード: 惑星科学, 惑星探査, 木星型惑星, 将来展望, 大気, 氷衛星

Keywords: Planetary Science, Planetary Exploration, Jovian planets, future survey, atmosphere, icy satellites